「あま市教育立市ﾌﾟﾗﾝ（案）」に関する意見募集（パブリックコメント）の結果について

●意見募集の期間　　平成24年1月11日（水）～平成24年2月9日（木）

●意見を提出された方　　3名

●意見数　　14件

項目	意見の概要	意見に対する教育委員会の考え方
1	1頁：「あまっ子」、「あま力」の意味が分かりません。	「あまっ子」は、あま市として目指す子どもの姿です。それを親しみやすい名称にしました。「あま力」は、市長の平成22年6月議会の施政方針の中で明記されていた「自らの判断と責任で地域の諸課題に取り組むことができる市民の力」と定義しました。同頁の欄外に注釈を追記します。
2	2頁：ＰＤＣＡサイクルについて、学校現場で点検・評価が先行しないように。	学校評価ではなく、教育委員会の教育立市プランの施策に、Ｐ（計画）Ｄ（実行）Ｃ（評価）Ａ（改善）の流れを導入した取り組みです。
3	3頁：重点施策２ですが、自己肯定感を持てる人間であってはじめて、人に思いやりを持ち共に生きる子どもを育めるのではないでしょうか。	ご意見のとおりですが、生徒指導の分野では自己肯定感、自己存在感を持たせることが重要です。ここでは、目指す目標を人権教育、道徳教育も含めた表現にしました。
4	5頁：毎月の献立表より切り方、味付けなど分かるホームページがありませんか。	ホームページには掲載していませんが、現在親子料理教室を夏季に実施していますので、地元の食材を利用して給食で過去に出た料理を行います。参加により切り方、味付けなどが分かると思います。
5	5頁：あま市で生産された食材を利用した料理コンクールや親子で考えた料理コンクールはありませんか。	以前に美和地区では「我が家の自慢料理」が平成　1年から10年まで実施されました。現在は夏季に親子料理教室を実施しており、地元の食材を利用して給食で出た料理を作ります。同時に料理コンクールも実施しています。
6	5頁：小中連携教育で小中一貫教育は考えていますか。	９年間一貫したカリキュラムを編成・実施する小中一貫校は、全国の研究開発学校や、構造改革特別区域研究開発学校などで行われております。海部地区では、飛島村に一貫校があります。この事業は、９年制の問題、校舎建設等課題があります。市教育委員会として、まず小中学校の連携を進めつつ今後の研究課題と考えております。
7	7頁：相談・支援機関に生涯学習課も入れてください。	「民生児童委員をはじめとする相談・支援機関」とは市の外郭団体を指しています。もとより、生涯学習課は教育委員会に属する部局ですので『相談・支援機関」とは異なります。
8	8頁：「教育人材バンク」はどのようなものですか。	教育委員会で人材バンクを設置し、地域の人材やＮＰＯを教育委員会で登録します。そして、各学校において、授業のゲストティーチャー、総合的な学習の時間での体験学習の講師、安全面・指導面での支援、環境面での支援をするというボランティア活動を行っていただこうというものです。

9	9頁：特色ある学校で、選択制の導入は考えていますか。	平成18年に学校教育施行規則の一部改正があり、学校選択制の拡大が促進されていますがあま市としては、導入は考えておりません。
10	10頁：幼稚園の環境整備について、5頁で幼保小連携教育とありますが、幼稚園だけですか。	保育園は、子育て支援課管轄（厚生労働者管轄）ですので、このような表現になりました。
11	10頁：教育環境の整備と充実とありますが、学校の図書館がいつでも利用できる状況ではないようです。司書の配置を考え、いつでも利用できる環境を作って頂きたい。	司書教諭は、各小中学校では１名配置されています。担任を兼ねている場合もあることと、児童・生徒会の委員会活動で児童・生徒が図書の貸し出しに参加している場合もありますので、長い時間の休み（２０分休み、昼休み）で開館されている学校が多いです。
12	11頁：図書館機能の充実について、美和図書館、甚目寺公民館図書室、七宝公民館読書室をネットワーク化の必要。	市の「公共施設の在り方」と関連した検討課題と考えています。
13	11頁：「子ども読書活動推進計画」は、あま市として策定されるべきと考える。	「子ども読書活動推進計画」をあま市として策定することは必要とは考えますが、当面は「愛知県子ども読書活動推進計画（第二次）」に基づき、子どもが読書に親しむことのできる環境づくりを推進します。
14	11頁：シニア世代の活力を地域で活かすための支援は。	美和歴史民俗資料館では「移動博物館事業」の一環として、地域のシニア世代を中心としたボランティアの方々（現在16名）を、昔の遊びや昔の暮らしを伝える授業の講師として小学校へ派遣しています。